

『ドラえものの長い一日』

文学部 3 回生 村越知晟

今回紹介したいおすすめの一話は、『ドラえものの長い一日』です。この話は、2009 年の誕生日スペシャルで放送された話で、のび太らしい優しさやドラえもんへの思いが垣間見える作品です。

この話は、ドラえもんがのび太と喧嘩し、ドラえもんを定期健診に連れに来たドラミと一緒に未来に帰ってしまうところから始まります。病院嫌いのドラえもんは、入れ替えロープを使ってドラミと入れ替わり逃走しようとしたが失敗、麻酔をかけられ病院のベッドにはりつけられてしまいます。直後、大けがを負った指名手配犯のロボット・デンジャが運び込まれてきます。デンジャは、入れ替えロープを使ってドラえもんを入れ替わり逃走、一方ドラえもんはデンジャの姿になったことに驚き必死に助けを求めます。

この話では、まず入れ替わった両者の姿をコミカルに描いています。前までで恐ろしいロボットとして描かれていたデンジャの中身がドラえもんになったことで表現される面白さと、ドラえもんを必死に演じようとしているデンジャのシーンが非常に滑稽で、最後まで飽きずに見ることができました。次に、ドラえもんが不在という他の誕生日スペシャルにはない異例の展開でありながら、ドラえもんとのび太がつくりあげている空間のあたたかさをデンジャという第三者を通じて表現している点が秀逸だと思いました。デンジャは、のび太と接しているうちにドラえもんにはのび太のような存在がいることを憧れのように思ったのでしょうか。これは、最後の「おまえがうらやましいぜ。」というデンジャのセリフにつながってきます。そして、最後にのび太がドラえもん（外見はデンジャ）を真のドラえもんだと見抜くシーンがあります。似たようなシーンは、のちの映画『のび太の南極カチコチ大冒険』にもみられます。外見が違っていても中身がドラえもんであることを見抜けたことから、いかにこれまでののび太とドラえもんが築いてきた関係が深いものなのかが垣間見えます。当時、リアルタイムでこの話を見ていた私は、ここまでのコミカルなシーンの後にこのシーンを持ってきたことでより感動したのか、このシーンで泣いた覚えがあります。

ここまで、長くなりましたが、ドラえもんのおすすめの一話について述べてきました。のび太の人柄は、デンジャの心をも動かしたといえるでしょう。デンジャが完全に悪い存在ではないこともこの話の鍵なのかもしれません。きっとこの後更生していることでしょう。今度は、デンジャものび太のような存在に出会えることを願うばかりです。今回、原作の話を選ぶかアニメオリジナルの話を選ぶか迷いましたが、一番おすすめできる話としてこの話を選びました。ちなみに原作で一番おすすめの話は『タンポポ空に行く』です。何かを始める勇気をもらいたいときには、この話がおすすめです。この話についてもいずれ触れる機会があればいいなと思います。